

## 公募型「ロボット実証実験支援事業」の実施

### 1 事業内容

- ・ 実証実験の案件を募集・選考し、採択された実証実施者の事業化プランに応じて実証先との間の調整を手助けするなど、実証実験の実施を支援する。
- ・ 実証実験の実施に際して必要となる費用は、会場使用料、安全対策費、実証に伴う機器のレンタル料、モニターへの謝金など、最大50万円を支援する。
- ・ 実証実験は、特区内に適切な施設がない場合等を除き、原則として、特区内で実施する。また、実証実験の計画を全国公募することで、優れた企業の新規立地や集積につなげる。
- ・ 実験内容及び実験結果を公開することで、生活支援ロボットの活用を作り手や使い手に対してアピールする。

### 2 平成26年度に向けての改善点

平成26年度からは、実証場所までのロボットの輸送費を支援するなど、多くの企業が応募しやすくなるよう制度の改善を検討するとともに、実証の場として元県立新磯高校を活用するなど、開発の早い段階からの実証実験も支援することで、ロボットの完成度に応じた多様な実証実験の実施を目指す。

公募とともに、他県の有望な案件に対して個別にアプローチしていくことにより、全国から多様な生活支援ロボットの实証実験を募り、本特区での実施を目指す。

### 3 元県立新磯高校を活用した実証の「場」の確保について

生活支援ロボットの实用化を促進するため、病院や介護施設での実証に先立ち、実際の使用環境に近い条件を再現し、模擬的な実証（プレ実証）を行えるようにする。

現在、非活用校となっている元県立新磯高校を活用したプレ実証により、ロボットの完成度を高め、その後の介護施設等の実証では、短期・集中的に質の高い検証を可能とし、早期の实用化につなげていく。

公募型「ロボット実証実験支援事業」以外に、重点プロジェクトでも実証の場として活用する。

#### 実証実験場としての施設の利用イメージ

- |         |                            |                  |
|---------|----------------------------|------------------|
| ・ 校舎 教室 | <u>生活空間を再現</u>             | 例) 介護、高齢者見守ロボで利用 |
| ・ 廊下    | <u>病院等の廊下を再現</u>           | 例) 盲導犬ロボで利用      |
| ・ グラウンド | <u>災害現場を再現</u>             | 例) 被災者探索ロボで利用    |
| ・ 体育館   | <u>屋外実証実験前の安定した実験環境を提供</u> | 例) 災害調査ロボで利用     |
| ・ 仮設プール | <u>災害地の川・池等を再現</u>         | 例) 災害調査ロボで利用     |